

鯉の養成配布

1. 趣 旨

前年度からの継続事業で鯉苗を配布することによつて養鯉事業の普及発展を図らんとするものである。

2. 経 過

親魚として養成中の在来種鯉97尾を採卵の目的で1月13日雌雄選別をなし夫々別個池に移し飼養準備し、雌雄交合して産卵池に移し産卵を待つたが、翌日から天候がくずれ気温が下降、降雨となつて産卵せず再び雌雄を分ち飼養、4月2日更に雌雄交合して産卵を待つたが、又々翌日から天候がくずれ産卵出来ずそれから雌雄の分離交合をなしたが天候の変化が多く、とうとう今年は産卵することが出来なかつた。

大和種鯉と在来種との成長度比較試験

1. 趣 旨

1955年5月品種改良の目的で、東京都から大和種鯉の卵を航空便で移入して孵化養成中であるので、成長度に於て在来種と如何程の差異があるかを確め、養組上の参考資料に供したい。

2. 場 所

大里村仲程の当所養魚試験池

3. 方 法

条件を同じくする必要から孵化池(側壁、底ともコンクリート張、水深7寸、面積2坪)を利用することにして大和種3区、在来種3区に夫々同大のもの略同数宛放養飼料には大豆粕と魚粉を3対1の割合で配合せるものとへ経過を見ることにした。

4. 経 過

7月19日に夫々放養、10月14日と翌年1月25日の二回に亘つて調査したが、孵化池の壁が低くて降雨の時飛躍逸脱するもの或は隣池に移つたりして數に異動を生じて次表のような結果になつて確実な資料とは言い難いが、大和の大和種4区と在来種d区と比較した場合、体重、体長とも相当の開きを見せ、略同数の残存数にある大和4区と在来c区と比べても大和種の成長が良いことが認められ、在来種が劣つてゐることが分る。今回は次期採卵準備のため短期間の結果を調査し得たのであるが飼育池に移し更に比較して後日報告したい。(比較調査表及比較参照)